

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2013.03.No187

3月号

目次

特集 東日本大震災から2年目をむかえて.....	1
道士会の動き.....	4
実行委員会報告.....	5
[地域貢献活動センター・総務・事業]	
青年・女性の怒.....	6
[青年委員会]	
支部だより.....	7
[札幌・古平・十勝]	
information.....	8

URL <http://www.h-ab.com/>

特集 東日本大震災から2年目をむかえて 北海道建築士会の取組みと被災地からの声を聴く

3月11日で東日本大震災から2年が経過します。あつという間の2年間では無かったですでしょうか。被災地の復興は遅々として進まない状況が報道されていますが、本当にこんなことで良いのだろうか。日に日に被災地が忘れ去られるのは、日本人として恥ずかしい限りです。南海トラフ地震や原発近傍の活断層報道ばかりが目につく今日この頃です。

東日本大震災から2年目を迎えるに当って、「北海道建築士」の掲載状況や本会としての取組みを纏めてみます。また、釧路大会にご参加頂いた宮城県建築士会の方々に2年目を迎える被災地からの声を聴かせて頂きます。ご寄稿頂いた方には感謝申し上げます。

情報委員会担当副会長 吉木 隆

北海道建築士を毎月発行してから2年が経過します。平成23年3月11日に発生した、東日本大震災の余震が引き続き発生している状況に、応急危険度判定士の派遣も行政職員のみと、北海道建築士会として何も出来ない手詰まり感が先立つばかりでした。そんな中、毎月発行の機関誌の速報性を発揮し、会員に伝える必要があるとの考えで5月号に「特集東日本大震災」を編集しました。その後続編として6月号で「特集北海道の被害状況」を編集しました。

その年の第36回全道大会・釧路大会は、全国大会がいち早く中止決定の中、支部長・理事に開催の可否を問い、「このような時だからこそ被災地に対する激励の意味を込めて」開催することとしました。大会テーマを「絆で築く建築士の未来」とし、A分科会「3.11そのときあなたは…」、B分科会「災害に強いまちづくり」、C分科会「自助・公助・共助」～地域防災力向上～のテーマで討論が行われました。

大会分科会パネラーとして、宮城県建築士会砂子会長、今野女性部会長、奥山青年部会長に釧路までご足労頂き（12月号掲載）、生の声を拝聴し被災地

に対する思いを新たにいたしました。

その後、大震災発生1年目を迎えるに当って、青年委員会の有志が「福島県青年の集い」に参加した被災地見聞録を、平成24年3月号に「特集被災地東北へ行き感じたこと」を編集しました。

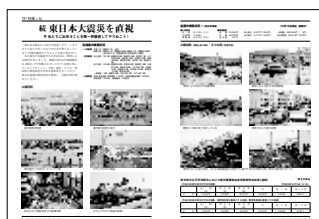
一方、平成24年4月から「まちづくり委員会」に「応急危険度判定制度検討部会」（9月号掲載）を設立し、地震直後に住民の避難施設の応急危険度判定を実施した、宮城県建築士会をお手本として、判定業務の仕組み等について検証を行い、一定方向を導き出しました。

その後部会を昇格させ、本年1月から「被災地応急支援特別委員会」を発足させて、実効性のあるものとするために、財源、人材、技術等細部にわたる検証を進めていくこととしました。

今まで発行した24号の内5号に、東日本大震災関連記事を掲載しています。多少の判断は出来ませんが、私たちは被災地を忘れないという思いで、今後も関連記事を掲載し続けます。また、災害時の体制づくりにも取り組んでいきます。



北海道建築士2011.05.No165



北海道建築士2011.06.No166



北海道建築士2012.03.No175

東日本大震災 今の現状について

(社)宮城県建築士会青年部会
青年部長
奥山 崇



東日本大震災の発生から約2年が経過し、現地での復旧・復興に向けた取り組みも変容している。県内においては、鉄道の復旧や瓦礫の撤去・処理などの進捗を受け、緩やかに改善しているところ、産業の復旧により雇用が回復しているところ、インフラ整備の復旧が進められ生活に支障が無い程度に回復しているところなど様々である。

鉄道の復旧や瓦礫の撤去・処理の回復が高い市町村は、宮城県利府町、松島町、岩沼市、塩竈市であるが、これに石巻市・東松島市・気仙沼市の名は上がってこない。同じ沿岸部でありながら、平坦な沿岸部、リアス式の起伏にとんだ沿岸部では復旧の差は歴然である。鉄道の復旧度の差については、海岸線を走っていた線路も多く、地盤沈下や今後の被害回避の為の路線変更も影響し復旧が進まないのが現状である。

集団防災移転促進事業において、岩沼市が造成を昨年8月着手、今後各市町において造成に着手する予定ではあるが、用地が完成するのみで、民間住宅・公営住宅はその後となり、工程表は出ているものの実際その工程通りとなるかは不明である。先駆けて工事が進むところもあれば、その用地の確保さえ難しいところもありその差は益々開くのでは、との懸念もある。

被災地地の公共事業化もスタートし、調査・設計、発注手続き中と進んでいる状況である。中には、現地調査の結果、滑動崩落の発生が認められず、安定計算上もすべりに対する安全性が確認されたことなどから、抑止対策工事の実施が不要と判断された地区も存在している。

発生後、2年の月日が流れようとしている。応急仮設住宅の期限は原則2年であるがさらに延長がはかられ5年となることは明白である。昨年冬などはその住み心地の悪さに不満の声がよく報道されていたのを覚えているが、多少の改善と慣れなのか、昨今あまり聞かなくなった気がする。元の暮らしに戻れる人、戻れない人、格差は広がり不満以上に不安を抱える住民が多く存在しはじめてるのが現状である。

昨年12月女川町竹浦地区の集団移転のアドバイザーとして、三井所会長などが説明会を催し、それに同行させて戴きました。まちづくりにおいて大切なこと、普段何気なく見ている風景をできるだけ壊さず、新たな風景を作ること、限られた時間のなかで住民に対して的確なアドバイスをなさってくださいました。復旧・復興を国・各自治体は急がなければいけないし急いでいると思う、だが今だからこそ、その地域風土にあったまちなみを新たに構築していくのではと、三井所会長に同行し思いました。

まだまだ復興の道は遠く、今の現状はまだ道半ばといったところですが、これからの加速に期待し、見守って戴きたいと思っております。

被災地の復興はどこまで

私たちが被災地に出かけるのも
復興支援になるか



中段左：
南三陸町防災対策庁舎津波は屋上を乗り越えた。漁港を取り巻く平地は建物が密集していたが、その街全てが津波により流失した。

中段右：
上記建物から1.2km離れた高台に「南三陸さんさん商店街」がある。商店街の皆さんの仮設商店街である。

下段左・右：
災害廃棄物処理業務巨理名取ブロック（名取処理区）仙台空港に直線で4.5kmの距離にある。常時職員・作業員が150人従事している。発災後3年以内（25年度末）の処理完了を目標としている。関上漁港の6.6haに処理施設や堆積場を配置している。



昨年の9月に某団体の「東日本大震災復興支援」視察に参加する機会がありました。大震災から1年半が経過する中で、復興しているとは程遠い状況に唖然としました。あれから半年で、どこまで進んでいるのであろうか気がかかります。吉木 隆

上段左：
震災後の石巻市立門脇小学校と瓦礫、校舎の右側が黒く焼け焦げている。

上段右：
昨年9月の同小学校の状況で廃校となった。

中段左：
石巻市日和山より震災時の旧北上川河口の津波状況。

中段右：
日和山から旧北上川河口と日和大橋の現在を見る。(昨年9月)

震災から2年を迎える宮城県

(社)宮城県建築士会女性部会
女性部会長
清本 多恵子



3.11、あの日も雪が舞っていた。震災直後、受け入れ体制がとれず、県外からの支援が無い状況で、連日、応急危険度判定に出動した。ガソリンが無い中、チャリンコ部隊も出動。先日、2年ぶりに開催された応急危険度判定士の講習会は会場が満席になり、「建築士として、社会に貢献しよう」という高い志を感じた。それを取りまとめていくのは建築士会しかない。

現在、津波の被害をまぬがれた建物が次々と解体されている。応急危険度判定の赤紙が「解体するしかない」と、誤解されての解体もある。復興した先に見えるふるさと姿はなつかしい風景が失われ、画一化された建物だけになって良いはずがない。建築士会連合会が取り組んでいるヘリテージマネージャーが、今こそ、被災地に必要と感じている。宮城県建築士会もヘリテージマネージャーへの取り組みを決定し、復興支援センターを設立、中居副会長がセンター長に就任。

地元の工務店は未だに膨大な量の顧客の修理におわれている一方、住宅メーカーは全国の力を結集し、他県の工務店が宮城県内に支店を開設している。そんな中で宮城県地域型復興住宅推進会議が設立され、建築士会の会員も参加し、宮城の風土にあった住宅の提供を目指す。宮城県建築士会が顧問になっている南三陸復興住宅推進協議会は国土交通省の地域型住宅ブランド化事業の採択を受ける。又、日本建築士会連合会が直接、復興に携わることが決定。内閣府の専門家派遣事業を活用して、宮城県女川町竹浦地区のまちづくりに協力する。

震災後、青年部・女性部は合同で、全国の建築士会の仲間の力を借りて、「ここはひとつ」プロジェクトを行った。被災地視察では、津波被害の他にも宅地の地盤の崩落も見ていただいた。今、次の段階の活動へ移行しようとしている。全員一致で「福島へ」。1月13日に南相馬市小高区へ下見のボランティアに入る。宮城県の沿岸部も遅々として、復興が進まないが、ここは別世界。3.11で時間が止まっている。日中しか立ち入りが許されていない人影の無い街。線量計で放射線量を計測してから、作業開始。鬱蒼と茂った蔓草を刈り取った下から現れた震災ゴミ。ビニール袋は劣化して、触ると崩れる。「この現実を日本人皆が共有しなければならない」と感じる。

まだまだ、復興への道のりは長く、先が見えないのが実感ではあるが、少しずつ、動き始めていることも感じる。未来は単なる復旧ではなく、復興が求められている。私たち自身がエネルギーを消費し続け、原子力発電所を容認してきた。

女川町竹浦地区には伝統芸能の獅子ふりがある。仙台の青葉まつりも震災の年は中止。次の年ようやく開催することができた。青葉まつりで踊るすずめ踊り。きっと、街を元気にすると信じて、今年も踊る。復興した街で、皆が笑顔で祭りを楽める日が来ることを信じている。

2013 第56回建築技術講習会開催中

日々の業務に役立つテキストを編集

昨年まで、55年間継続して開催してきた「寒地建築技術講習会」を、今年から「建築技術講習会」と名称を改め、「寒冷地の建築技術」という枠にとらわれず、社会のスピードや技術者のニーズに即した内容をテーマとし、建築技術者の方々にとって、より実践的な講習内容としました。

また、これまで本部主催として各地域で開催してきましたが、今後は同じテキストを使用し、各支部主催の講習会や支部内の研修会等として実施できるように開催方法等も改めました。

各支部での開催の有無や開催時期等については、各支部において検討されておりますので、開催が決定した支部から、順次会員の皆様へ支部ニュース等でご案内いたしますので、是非この講習会（又は研修会）を建築技術者としての自己研鑽の場としてご活用ください。

今回の講習会から新しく盛り込んだテキスト「資産価値の高い建築を提供するためのポイントと解説」の内容について簡単に紹介します。

- ① 「EPS断熱材の外張断熱工法（木造外壁や断熱改修への展開）」を初めて紹介
- ② 太陽光発電パネルのメリット・デメリットを検証。新開発！無落雪屋根へのエコエネPVレール工法とは？
- ③ 材料シリーズ第3弾！「木材利用の留意点」乾燥木材の知識、強度性能保証木材、防火木材などを紹介
- ④ 建築に関わる法的事例を弁護士が解説（工事ミスと契約解除、注文者の指図と施工者責任、建築の著作権など）
- ⑤ 「建築確認」や「構造計算適合性判定」の審査がスムーズに運ぶ！申請者側のひと工夫を紹介
- ⑥ 地域型住宅で補助金が得られる「地域型住宅ブランド化事業」の中間評価と今後の展望
- ⑦ 認定を受けて所得税減税その他のインセンティブ！都市の低炭素化法と省エネ法の改正概要を紹介
実際の工事写真、建築確認申請書類、図面等も掲載し、実践に活用していただけるように編集しました。

各支部の事務局に実際のテキストがありますので、是非一度ご覧になってください。

道本部の主な行事予定

◆すべての建築士のための総合研修	3月1日(金)
◆第2回理事会	3月2日(土)
◆北海道建築士会通常総会	3月22日(金)
◆全道青年委員会連絡会議	3月23日(土)

関係機関等会議出席状況

◆CPD専攻建築士制度委員会	3月6日(水)(東京)	高野会長出席
◆日本建築士会連合会理事会	3月15日(金)(東京)	高野会長・石川統括理事出席
◆専攻建築士認定評議会	3月18日(月)(東京)	高野会長出席
◆JIA建築家認定評議会	3月29日(金)(東京)	高野会長出席

住所等登録事項変更時の届出のお願い

住所等会員登録事項に変更がありましたら、各支部事務局までお早めにご連絡ください。

道本部主な委員会報告

- ◆第1回情報委員会 2月2日(土)
 - 1) 会誌年間スケジュールについて
 - 2) 会員作品展について
 - 3) ホームページについて 等
- ◆第1回まちづくり委員会 2月10日(日)
 - 1) 高校生デザインコンクールについて
 - 2) まちづくりセミナーについて
 - 3) 景観整備機構について 等
- ◆第1回被災地応急支援特別委員会 2月16日(土)
 - 1) 委員会設立経緯について
 - 2) 連絡網の整備について
 - 3) 応急危険度判定訓練について 等
- ◆第1回総務委員会 2月16日(土)
 - 1) 会員増強の具体的な取り組みについて
 - 2) 顧問の委嘱及び表彰について
 - 3) 総会の中継について
- ◆第1回青年委員会 2月23日(土)
 - 1) 全道青年委員会連絡会議について
 - 2) 青年建築士の集い(日高)について
 - 3) 全道大会青年サミット・分科会(恵庭大会)について

地域貢献活動センター委員会 新任挨拶



委員長
佐藤 芳則（苫小牧支部）

平成22年と23年、地域貢献活動センター委員会の委員を務めた経緯もあり、この度委員長をお引き受けしました苫小牧支部の佐藤芳則です。宜しくお願いいたします。

日本建築士会連合会が平成9年4月に地域貢献活動推進センターによる助成事業を開始して以来、全国の各建築士会に地域貢献活動センターが設立され、活発に活動されて来ました。

北海道建築士会に於いても平成21年6月北海道建築士会地域貢献活動センターを立ち上げ、推進センターからの助成を受けながら活動を続けて参りました。

一方、平成13年6月、北海道建築士会まちづくり委員会に於いて「まちづくり活動奨励制度」が創設され、道内各地での青年委員会や女性委員会を中心とした地域に根ざした様々な活発な活動に対して、技術や情報や活動費の一部を助成して、活動の持続性や主体性を高め、建築士の社会貢献をバックアップして参りました。

その事業を引き継いだ地域貢献活動センターは、その創設時の意思を尊重し、北海道独自の方向性を睨みつつ、住民主体の地域づくりと建築士を結びつける活動に対し支援を続けて参ります。

今年も既に募集が始まっております。

地域貢献活動に定型的なものはありません。皆さんに相応しいパターンの「地域貢献活動」を提案して頂ければ幸いです。

詳細はホームページ及びリーフレット等で紹介しております。

応募をお待ちしています。

総務委員会



委員長
宮原 進（旭川支部）

今年、1月4日に新法人の登記がなされて「一般社団法人北海道建築士会」が新たな歩みを始める記念すべき年になりました。

12月の総選挙で自民党の予想を超える大勝に驚きましたが、新政権に対する期待も大きいものがあるところで、さまざまな社会経済再生の施策が打たれようとしており、我々建築に係るものにとってはある面、歓迎すべきなのかもしれませんが、将来にそのつけを回すようで、不安を感じる方も多いことと思います。

ご承知のとおり我が組織も年々会員数が減少し、建築士会の組織運営に赤色信号が灯ることも想定しなければならない状況になってきています。

昨年12月の総会で平成25年の予算と事業計画案が承認され、すでに今年度の士会活動が始まっております。

総務委員会といたしましては会員増強特別委員会の議論を踏まえて、青年、女性委員会等の各実行委員会やブロック会と連携し、具体的な活動の方向性を検討し、提案していきたいと考えておりますので、会員各位のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、理事の数が削減されたり、総会が代議員による開催となりますことから、会員のなかには情報や各会議の議論の内容が伝わりにくくなるなどの不安を感じている方々も多くいることが、昨年開催の総会で明らかになったところであります。

新法人としてスタートして間もないことから、十分に会員の皆様のご意見やご希望に答えることができませんが、情報の伝え方などを工夫しながら、可能な限り正確で新しい情報の提供に努めていきたいと考えておりますので、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

事業委員会



委員
下元 英徳（釧路支部）

事業委員の役割を与えて頂き、1年が経ちました。

仕事内容をよく理解していないなか開催された委員会、寒地建築技術講習会のテキスト校正と各地で行われる講習会の割り当てなどが話し合われ、ほぼ助走のないまま流れるように活動がスタートしました。

テキストの校正では、字体の統一から誤字、句読点のチェックをしましたが、不慣れな作業に苦戦しながら、テキスト作りのいろはを教わりました。

先輩方々にほとんどの部分を頼り完成した、私にとっての初めてのテキストでしたが、完成をとっても嬉しく感じました。

テキストの完成の喜びもつかの間で、寒地講習会の準備が始まりました。原稿をパワーポイントで編集し、会場での話す内容に合わせてアニメーションなどの効果を加えながら、テキスト内容の学習や先輩が公演している音声データの聞き込みとスタートの2ヶ月は、あっという間に過ぎていきました。

不慣れな講義ではありましたが、テキストと会場に集まっていたいただいた皆様のご協力に助けられましたので、この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

平成25年からは、建築技術講習会と名称を変更し、事業委員による手作りのテキストを編集しようと、アイデアを出し合い、日常で行なっている業務や経験から得られる情報を持ち寄り、価値の高い建築を市場に供給するためのスムーズな業務や現場のお得情報、業務上の法律情報など、新しい情報も加える事ができましたので、各支部での勉強会や技術講習会の資料として積極的に使用して頂ければ幸いです。

またページ数に限りはございますが、会員の皆様より、このテキストに載せたい情報や知りたい技術や制度などを盛り込みたいと思いますので、本部または事業委員まで連絡を頂ければ、テキストのネタとして検討致しますので、合わせてお願い申し上げます。

青年委員会

全国大会（茨城大会） に参加して

副委員長

齋藤 勝哉

昨年10月18・19日に茨城県水戸市で行われた建築士会全国大会（18日『全国建築士フォーラム』19日『本大会・交流セッション①』）に参加してきました。

18日のフォーラムでは、以下の内容で開催されました。

●基調講演

東日本大震災当時、福島県建築士会青年委員長 大桃 一浩氏より「被災地当事者として、建築士として、被災からこれまでの道のり、そして現況」のテーマでお話いただきました。

●パネルディスカッション

近年各地で起こった災害（地震や水害等）の被災された地域の方をパネラーとしてパネルディスカッションが行われました。

●実践活動パネル展示

翌日のセッションで発表される13支部の実践活動についてのパネルを展示し活動内容について投票が行われました。私の担当した旭川支部のパネルでは、同年5月に開催された『青年建築士の集い』の内容を中心に支部の活動として定着しつつあるブロック玩具を使った活動を『ブロック玩具でまちなみを造ろう』と題して紹介しました。※このパネルは、日本建築士会連合会ホームページ内の青年委員会websiteに掲載されています。

このフォーラムに参加し感じたのは、私の住む旭川では災害の例がほとんどなく、また、実際に被災された経験談を聞く機会もあまりないので、非常に貴重な話を聞

けたと思います。

震災からもうすぐ2年が経とうとしています。以前に震災関連の記事を担当させていただきましたが、それ以降は特に震災について忘れられた感を感じていました。時折、原発事故の関連での報道を目にすることがありましたが、それ以外の復興の状況などは目にすることがあまりないような気がします。こういったことから、何らかの形で現状を発信することの必要性を強く感じました。

19日の交流セッション①では、前日のフォーラムで展示されたパネルを使い、実践活動内容を発表してきました。

合計12の活動（残り1つは展示のみ）がテーブルディスカッション形式で発表され、それぞれのテーブルごとに報告や意見交換等が行われました。

私の担当したテーブルでは、京都、岐阜、静岡等様々な地域の方たち7名ほどに座って頂きました。参加理由を尋ねたところ、「同じようにブロックを使って活動している。」や「自分たちの活動の裾野を広げるヒントが欲しい。」「一般の人たち向けに活動しているので情報を共有したい。」等とても前向きに持ち帰って活動に生かすべく参加してもらえたことを大変うれしく感じました。中には、「たんに興味があっただけ。」という方もいたのですが、興味を持ってもらえただけでも一つの成果だと思いました。



発表中の様子

実際に話し合いを進めて、共通の認識と感じたのが、それぞれが活動していて多くの参加者を集めようとすると、「わかりやすく」としての部分が薄らいでしまう。かと言って、建築士(会)を強調すると専門性が上がってしまい広く広報するのが難しいということでした。

発表した内容では比較的子供向けの内容が多く、専門的な内容がほとんど含まれない中でも、[建物]、[まち]、[まちなみ]のそれぞれの違いを考えてもらっては？との意見があり、私自身も特に意識して考えたことのない部分だったので、とても印象に残りました。

また、今後このブロックを用いての活動をすすめ、広げていく為のヒントをたくさんいただきました。今後の活動に生かして行きたいと思います。

今回は発表者として参加し、活動内容の発表からディスカッションまでテーブル内でのみ行われたので、他のテーブルの様子が一切わかりませんでした。前日展示されたパネルを見た程度のことしかわからず、色々興味があったのですが、説明も聞けなかったことがちょっと残念に思いました。

なお、参加した全13の活動から、兵庫県建築士会の活動が連合会長賞に。三重県建築士会が茨城県建築士会長賞に。私を含め他全ての活動は奨励賞を受賞しました。



連合会青年委員長による奨励賞の授与

札幌支部

支部総会終わりました

副支部長

長谷川敏文



平年に比べて40%も多い現在の積雪量ですが、累積降雪量は変わらないそうです。昨年末のドカ雪以来、真冬が続いたため日中でも雪が融けることはありませんでしたね。

1月30日(水)に札幌きょうさいサロン会議室で札幌支部の理事会と総会を開催しました。例年通り行われている活発な事業の内容について各委員会委員長から報告がなされ、続けて平成25年度事業計画(案)が予算(案)と共に承認されました。

一般社団法人に属する支部になったばかりで、支部規約や会計処理において、道本部との細かい整合性の整備はこれから一つずつやっていくというスタンスです。

理事会席上では、井上理事から「社会のニーズに則した勉強会、セミナーを開催しては」との具体的なテーマの提示と提言があり、続けて開催された支部総会において、さっそく25年度事業計画(案)に反映することにしました。臨機応変に対応できる支部組織と積極的な活動意欲は魅力いっぱいです。

今年度より北海道建築士会本部総会が代議員制になったことにより、本部総会において、直接会員が事業執行の内容についての質問をし、あるいは、企画提案をするといった機会がなくなりましたので、札幌支部総会や支部各委員会活動を通して吸収する会員の方からのメッセージは益々貴重なものとなります。

総会や各委員会活動、ボランティア活動などにおいても、札幌支部の会員方が積極的に楽しく参加でき、市民を巻き込んだ事業が推進できるよう、今後も皆さんと知恵を出し合っていきましょう。

古平支部

過去の楽しい思い出

副部長

山田 文雄

昭和52年に古平支部会員として入会してから36年が経過しました。

当時は、世界経済が第2次オイルショックの影響で経済成長が停滞していた時期でもあったが、その後、次第にインフレが収束し、停滞していた設備投資も回復に向かい、建設業界もバブル景気へと突入した時期でもありました。私の勤めていた自治体も箱物建設が毎年大中小様々、次から次へと建設ラッシュに沸いた時期でもありました。

私も自治体職員の一人として多くの建設に関わることができ、建築士を志した者として、いろんな経験をさせていただき、充実したときを過ごすことができました。

その頃、士会会員の中には、強力な諸先輩が沢山おられて、仕事のことやら、お酒のおつき合いなど多岐にわたり社会勉強をさせていただきました。

若き青年であった私にとっては、いたく感銘を受けましたが、今思うと過去の良き思い出として、決して忘れることができないひと時であったと、当時の諸先輩に心より感謝を申し上げております。

平成6年からは、若き青年が志した建築の仕事から、全く縁のない部署での異動を繰り返し退職となってしまいました。

若い頃は、建築の物づくりへの情熱が人一倍あったと自分なりに思っていたのですが、今では物づくりへの関心が自然に忘れ去られ、考えることもなくなりましたが、ただ、過去に諸先輩から培った美味しい料理を沢山食べてお酒を飲んで親睦を図り、そして憩いのひとときを過ごすことだけは、決して忘れておりませんので、今後も末永いおつき合いをさせていただきます。

十勝支部

還暦を迎えました

事務局長

三日市則昭



十勝支部は、昭和27年2月に「十勝建築士会」として産声をあげてから、60年の歴史を積み重ねることができました。

自分自身も一昨年還暦を迎えほぼ同じ軌跡を歩いてきたことを思うと感慨深いものがあります。

昨年9月29日には高野会長、道東各支部長各位にご臨席いただき、記念式典、記念事業、ささやかに祝賀会を催し60年の節目をお祝いしました。

この創立60周年事業で事務局として一番思い出深いことは、いままでに周年事業を行っていなかったことから、昭和27年からの記録や写真が残っていなかったことです。

いざ、記念誌を作成しようと書棚をのぞいても昔の歴史が蘇りません。そこで、本部の書庫に赴き、創立当時からの会誌を見せていただき、支部の動きが多少垣間見ることができました。

そのなかで、支部の先達は設立間もないころから講習会等を企画・開催して技術の研鑽に力を注いでいたことが解りました。

この進取の精神は今も我々に脈々と流れ、古建築調査や中学校の総合学習指導等の事業を行う力となっているように思いました。

書籍や写真等で支部の歴史をつないでいくことも必要ですが、当支部は心で歴史をつないできたのではないかと感じています。

これからも今までの歴史を踏まえつつ、会員にとって魅力ある支部づくりに取り組んでいきたいと思っています。

全道の会員の皆様、これからもよろしくお祈りします。

平成25年度

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

会員の創意と技術に満ちた作品を紹介することで、会員の技術力向上とこれを起点としたコミュニケーションによる士会活性化を目的とした作品展です。多くの会員の応募をお待ちしています。

応募対象

- ①対象建物 平成21年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- ②対象者 本会の正会員（応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります）
- ③応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

応募締切および提出先

平成25年5月25日（土）必着

[提出先]

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地大五ビル6F
 (一社)北海道建築士会 事務局
 TEL: 011-251-6076 FAX: 011-222-0924

応募資料

- ①申込書 所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- ②提出資料 図面（平面図・断面図・配置図等）及び完成写真（内・外装）等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。（応募作品は返却しません）

作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No.192」に掲載します。

※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

HP <http://www.h-ab.com/>

CPD認定プログラム（2月認定）

- ◆平成25年度 すべての建築士のための総合研修
 《日程及び会場》3月1日（金） 13:00~17:00
 北海道第二水産ビル（札幌市）
 《単位数》 4単位
 《問合せ先》 (一社)北海道建築士会
 TEL 011-251-6076
- ◆北海道の建築技術向上のための講習会
 《日程及び会場》3月15日（金） 10:00~15:00
 北海道建設会館（札幌市）
 《単位数》 4単位
 《問合せ先》 (一社)北海道建設業協会
 TEL 011-261-6185
- ◆建設工事に伴う労働災害・火薬類事故防止講習会
 《日程及び会場》3月5日（火） 13:30~17:00
 北海道建設会館（札幌市）
 《単位数》 3単位
 《問合せ先》 (社)日本建設業連合会北海道支部
 TEL 011-261-6245
- ◆低炭素建築物認定制度及び省エネ基準改正に関する説明会
 《日程及び会場》3月21日（木） 13:30~15:50
 旭川市職員会館（旭川市）
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 旭川市都市建築部
 TEL 0166-25-8597

実務に役立つ建築法規解説2012 販売のご案内

平成25年1月~2月に開催の第46回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。

販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



実務に役立つ 建築法規解説2012

編集＝全道建築行政連絡会議

.....

第46回 建築基準法講習会テキスト

◎A5判 ◎定価：3,150円

※送料希望の方へは書籍に請求書を同封の上、送料着払で発送しておりますので、FAXにてお申込ください。申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。

【図書問合せ先】 (一社)北海道建築士会 本部

今月号の会誌は、暦の関係上3月3日（日）の送付となります。

編集後記

春の気配を感じる季節となりました。年末より忙しい年度末を迎えられる方も居られるのではないのでしょうか。

さて今月は「東日本大震災から2年目をむかえて」と題しまして特集を組んでおります。2年が経過しても、今なお先が見えない状況を、被災地の方から生の声を聞かせて頂いています。被災地から距離がある分どうしても忘れがちですが、3月11日の震災の記憶を風化させず、伝えていくことが私達に出来る最低限のことではないのでしょうか。 情報委員会 神田 光英

情報委員会委員長／岡田 隆
 副委員長／三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
 委員／森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
 用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.187号

印刷 平成25年2月／発行 平成25年3月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番